



この本では、「青少年研究会」の1992年から10年ごと計3回の神戸・杉並の調査データから、次の傾向を

藤村正之、浅野智彦、羽淵一代 編
2592円 恒星社厚生閣
☎03-3359-7371

自の意義を主張する。藤村氏は、同一世代を時系列的に追う定点観測の視点、中年世代も交えた横断的視点、コーホート（同時経験集団）分析による縦断的視点によって、若者世代の特徴と考えられてきたものを相対化する研究の意義を主張する。

教育界でよく取り沙汰される若者の道徳意識の低下、友人関係の希薄化などの言説について、

この本はデータに基づいて、正反対の検証結果を提示しており、傾聴に値する。それでもなお、

評者は、それらの一見「好ましい傾向」が、じつは「不安感社会」における防衛的態度の表れになっており、生涯にわたって仕事、私生活、地域・社会において能動的に活動するためのものにつながないと考える。教育においては、社会形成者の育成に向けて、タイプ別の深掘りによる正しい生徒理解を進める必要があるだろう。



友人については「希薄化ではなく、選択化や同質化」、恋人については「情熱より安定した関係性」、メディアの利用形態については「ネット利用による多元的自己及びSNSによる自分らしき探索」、音楽については「好みの細分化と感情サブリとして

の利用」、読書については「自己啓発書により自己を操作するという感覚」。

また、浅野氏は、2012年調査データの若者と中年との比較により、生活満足度が経済的要因のほかに、若者のみの傾向として、友人と家族の親密性と正に関連していると述べ、「幸福感の高さ」と人間関係のあり方に焦点を当てた若者研究の独

現代若者の幸福 不安感社会を生きる

（聖徳大学教授・西村美東士）